4-1

四一

チョコレート戦争

スマイリー 力輝

この本は、母が小学校の時に読んだ本です。初めてこの本を見た時、ぼくは子供がチョコレートを投げ合ってけんかする話だと思いました。でも読み終わった時は、同じ小学生男子として、犯人あつかいされた男の子達がかわいそうで、せつない気持ちになりました。これはやっていない人をおった と決めつけた大人達と、それはひどいと怒った小学生との戦争です。

金泉堂のケーキはとてもおいしいので、「約束をやぶったら金泉堂だよ」と、子供たちの流行語になるほどです。明と光一がそのショーウィンドーの中のチョコレートの城を見ている時、とつ然ショーウィンドーがくだけ散りました。たまたまチョコレートの城を見ていて、たまたまおもちゃの銃を手に持っていた二人がうたがわれてしまったのです。不運すぎます。学校の桜井先生は

カンタベリー日本語補習校

二人の話を信じてくれたけれど、お店の人達は、二人が犯人だと思い込んだのです。

光一はとても勇気のある男の子です。チョコレートの城をぬすみ出す計画を立てて、実行したからです。つかまることは分かっているのに、

「大人の言う通りにはならない。小学生のすごいところを見せてやりたい。」

と、とても強い悔しい気持ちがありました。そして性格判断がとく意だと思います。ぬすむ時のメンバーから、明をはずしました。この計画の最後には、ひどくしかられるのが分かっていたからです。ぼくは明タイプの人間です。こんな大きな事件を起こす事は出来ません。明の様に光一を止めようとするので、この計画に参加する資格はないと、光一に分析されてしまうでしょう。光一が選んだ四人は、大人にしかられても気にしない、いたずらが大好きなタイプです。この四人への合格通知の知らせ方が、とても面白くて大笑いし

ました。思わず本にしおりをはさんだほどです。ほ習校の先生には、あまり言いたくないのですが、授業中にノートをやぶって、手紙を書き、あて名に赤線を引きました。これは速達ゆう便です。クラス中をわたって、一分以内に相手に届けられます。航空便もあって、これは手紙を飛行機に折って直に飛ばすそうですが、先生に見つかる可能性が高く、ちがう方向に行くのできけんだそうです。ぼくの母もやったことがあるそうです。クラスのみんなが協力するところがとても面白いと思いました。

明は光一とはちがう方法で大人と戦いました。明は光一を心配するやさしい子です。新聞部で、このひどい事件を記事にしました。副部長は

「社会的にも重大な問題」

と言ってくれて、市全部の小学校新聞にのせました。この記事を書いたことで、金泉堂のお客さんはへり、トラック運転手さんはタイ

カンタベリー日本語補習校

ヤが石を飛ばしてガラスを割ってしまったと正直に名のり出てくれたのです。チョコレート戦争は子供たちの大勝利に終りました。ごかいがとけて本当に良かったです。

金泉堂の金兵え氏は、経験によるかく率から光一と明を犯人と決め付けてしまいました。完全にえん罪です。ぼくは別の本で、ちかんに間ちがわれて会社を辞めさせられた人や、殺していないのに十年間も刑む所に入れられた人を知りました。その人の人生が変わってしまいます。ぼくは将来、名探ていか、交通事故かん定人になりたいと思っています。えん罪を証明するのはとても大変なことですが、無実の人の役に立てるかもしれません。